

2019年10月21日(月)

第76回全国保健所長会・総会 会員協議

御即位奉祝

神宮

グローバルヘルスに対応する 保健所の課題

～マスギャザリング・イベントを経験して～

地域保健総合推進事業

新興再興感染症等健康危機管理推進事業

事業協力者 三重県伊勢保健所 鈴木まき

2019年5月1日 令和初日



2019年1月2日 深夜



2019年5月1日 令和初日



2019年4月30日 平成最後の日



10連休(2019年4月27日～5月6日)の伊勢神宮 88万200人参拝

- 平成最後の4日間(4月27日～30日) 31万8千人
 - 5月1日は17万4千人
 - 伊勢市の人口 12万7千人
- 現地の人口以上の多人数が集中！

マスギャザリング

「一定期間、制限された地域において、同一目的で集合した多人数の集団」

日本集団災害医学会(現在:日本災害医学会)

過去のマスギャザリング・イベントにおける 感染症

- ◆イスラム教のメッカ巡礼
 - ◆世界スカウトジャンボリー
 - ◆近年のオリンピック大会
-
- ・呼吸器感染症（インフルエンザなど）
 - ・食物・水に関連した消化管感染症（ノロウイルスなど）
 - ・蚊媒介感染症（ジカ熱など）
 - ・麻しん 風しん 流行性耳下腺炎
 - ・髄膜炎菌感染症 など

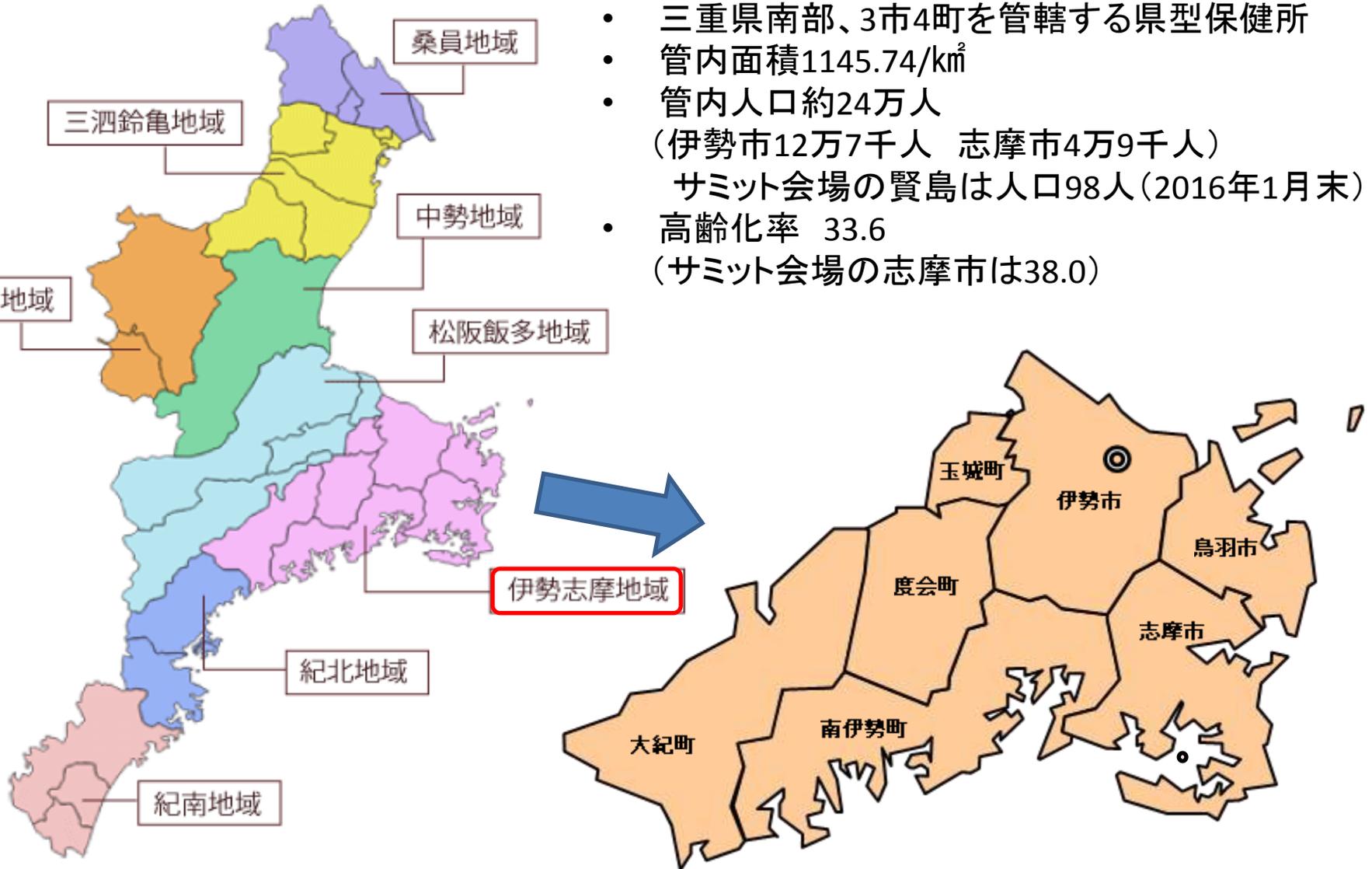
G7 伊勢志摩サミット 2016

- 開催日: 2016年5月26日, 27日
- 場 所: 三重県伊勢市、志摩市
- メイン会場: 志摩観光ホテル(志摩市賢島)
- 参加国: G7(フランス、アメリカ、イギリス、ドイツ、日本、イタリア、カナダ)および
欧州連合
- アウトリーチ会合招待国・組織:
ラオス, ベトナム, インドネシア,
バングラディッシュ, スリランカ,
パプアニューギニア, チャド, 国際連合,
経済協力開発機構, アジア開発銀行,
世界通貨基金, 世界銀行
- メディア: 約5,000人(メディアセンター)
- 警備: 三重県内 約 2万人



三重県伊勢保健所

- 三重県南部、3市4町を管轄する県型保健所
- 管内面積1145.74/km²
- 管内人口約24万人
(伊勢市12万7千人 志摩市4万9千人)
サミット会場の賢島は人口98人(2016年1月末)
- 高齢化率 33.6
(サミット会場の志摩市は38.0)



It's a small world after all!

マスギャザリング・イベントにおける 感染症対策

- ・事前の地域における感染症サーベイランス, リスク評価
- ・イベント開催中の感染症のモニタリングによる異常の早期探知と対応
- ・イベント終了後の地域における感染症のモニタリングやイベント開催前との比較

○国立感染症研究所・FETPの活動

期間: 2016年5月16日～5月28日

○保健所の事前準備(感染症対策)

- ・研修会見学(DMAT研修、NBCテロ研修) 所内勉強会
- ・宿泊施設(旅館・ホテル)への啓発・指導・相談対応
- ・住民への感染症対策啓発
- ・期間中の疑似症サーベランス拡大について地区医師会への説明。

セキュリティー VS 情報共有

伊勢志摩サミットにおける 感染症サーベイランスシステム

【従来からのサーベイランス】

- ・感染症発生動向調査事業(全数把握・定点把握)
- ・感染症発生動向調査事業における**疑似症サーベイランス**
(**定点数を増加させた拡大版 伊勢保健所管内38／全71医療機関**)
2016年3月22日～6月6日 実施
- ・学校・保育園欠席者サーベイランス
- ・薬局サーベイランス

【新しいサーベイランス】

医療機関強化サーベイランス

4医療機関に1日2回、FETPが訪問、聞き取り

- ・救急搬送サーベイランス
- ・警察サーベイランス

医療機関強化サーベイランス (FETP)

- 実施医療機関

1. 伊勢志摩地区の4医療機関

- 期間と方法

1. 5月17日～28日の12日間は国立感染症研究所感染症疫学センターおよびFETPが現地に駐在し、4医療機関を午前と午後に訪問して情報を収集。5月29日～6月7日は午前のみ電話で感染管理担当者等から情報を収集した。
2. 1日2回の確認により、イベント発生とその確認・評価のタイムラグを可能な限り短縮

- 探知対象疾患及び事例

1. 麻しん、風しん、水痘、髄膜炎菌感染症、感染性胃腸炎、輸入感染症及びテロが想定される感染症
2. 疑似症に該当する症例
3. 平時と異なる診療状況(サミット関係者・同一症状の集積)



Event based surveillance (“何かおかしい”の情報収集)

結果: 散発性の市中感染を探知できた。

サミット関係者のムカデ、ダニの咬傷、脱水症、インフルエンザ等を探知できた。

疑似症サーベイランス拡大版

- **疑似症の定義**

1号: 摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状(明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く)

2号: 発熱及び発しん又は水疱

- **サーベイランス体制の強化**

1. 全域で 71 医療機関(伊勢保健所管内38機関)を指定届出機関
実施期間: 2016年3月22日～6月6日

→ 結果: 報告数はゼロだった。

課題: 報告対象すべき事例を明確化する必要がある(例示集作成等)

会場の位置



伊勢保健所
伊勢神宮
国際メディアセンター

サミット会場
現地対策本部
伊勢保健所
(志摩市駐在)



セキュリティー vs 情報共有

セキュリティーは大事。それでも...事件は現場で起こっている。

伊勢志摩サミットのレガシー

- 1人1人の感染症対策が集合して、国全体のそして世界全体の感染症対策になる。
- まずは足元が最も重要。
- 1人1人の感染症対策が、グローバル感染症対策につながる。

2019年8月24日の風景



東京オリパラ 全国各地がホストタウンに！

伊勢保健所管轄では...

- 伊勢市 ラオス
- 志摩市 スペイン

伊勢市交流計画の概要

団体名

三重県伊勢市

相手国・地域

ラオス

2019～
(大会開催まで)

2020
(大会中)

2020～
(大会直後～)

事前合宿の受入

「東京2020パラリンピック競技大会」に出場するラオスパラ陸上チームの事前合宿を伊勢市で実施



相手国選手・スタッフとの交流

市民（地元小学生等）との交流事業（文化交流・スポーツ交流）の実施。バリアフリー観光体験



相手国の関係者との交流

大会参加国関係者を招き、文化等交流事業を実施
(ラオスのことや、健常者と障がい者がともに参加するインクルーシブ陸上を紹介する授業等)



日本人オリンピック・パラリンピアンとの交流

日本人オリンピック・パラリンピアンを招き、講演会を開催
障がい者陸上選手による小学校での障がい者スポーツへの理解、多様性理解促進に向けた特別授業&体験会実施

ラオス、障がい者スポーツを知る

ラオスのことや、障がい者スポーツを知るイベント開催。パラアスリート応援



★ユニバーサルデザインのまちづくり

(伊勢市バリアフリーマスタープランの策定、伊勢市交通バリアフリー基本構想の推進、バリアフリー観光の推進 等)

★心のバリアフリー

(障がい者サポーター制度の推進、子ども達への教育、障がい者スポーツの理解促進、国際交流の推進 等)



大会後も継続して交流

加速化

志摩市交流計画の概要

団体名

志摩市

相手国・地域

スペイン

2019～
(大会開催まで)

2020
(大会中)

2020～
(大会直後～)

スポーツを中心
とした交流

- ・ スペイントライアスロン代表選手を招いた地元オリンピックと地元小中学生の交流イベント



- ・ 直前合宿の受入
- ・ トライアスロンスペイン代表選手ウェルカムパーティー開催
- ・ スペイントライアスロンチームパブリックビューイング

- ・ 伊勢志摩・里海トライアスロンへの招待選手としてスペイン枠設置



食文化交流・
販路構築

- ・ スペイントライアスロン代表選手・専属シェフに「御食国志摩」試食体験・視察
- ・ 志摩みつけ給食で小中学生との一緒にスペイン料理の試食体験交流



「食と観光」を活用した流通促進交流都市協定の締結



- ・ 「食」による両国相互間の流通販促
- ・ 地元テーマパークでパエリャ・フラメンコ両コンクール開催による文化交流

観光資源を生かした交流

- ・ 「バイシクルジャーニー」体験によるサイクリングツーリズムによる観光資源化・情報発信



- ・ クアオルト等温泉活用による志摩リラグゼーションモデル体験
- ・ 文化財活用した新たな資源確保



- ・ ニューツーリズムによる新たな観光客層の確保
- ・ インバウンド客へのアプローチ増加獲得
- ・ 現地旅行会社とのネットワーク構築

地域保健総合推進事業

新興再興感染症健康危機管理推進事業(井澤班)

2018年度の取り組み

- 新興(または大規模)感染症発生時の疫学的業務及び情報公開、情報共有の課題に関する検討
- 麻しん対応についてのアンケート調査
- 公衆衛生医師に必要な感染症学習事項の整理
- 疾患への対応の助言(蚊媒介感染症など 必要に応じて助言改訂)

地域保健総合推進事業

新興再興感染症健康危機管理推進事業(井澤班)

2019年度の取り組み

- 新興(または大規模)感染症発生時の疫学的業務及び情報公開、情報共有の課題に関する検討
(NESIDファイル共有、疑似症サーベランス、定点の見直し、1類感染症情報公開など)
- マスギャザリング・イベントにおける取り組み強化に関する検討
ラグビーワールドカップ開催地の感染症対応について
アンケート調査
- 広域にわたる集団発生事例の対応に関する支援の検討
- 疾患への対応の助言 (蚊媒介感染症など)

One for all,
ひとはみんなのために
みんなはひとりのために
all for one

#止めるぞ_風しん

対象: 1962(昭和37)年4月2日~1979(昭和54)年4月1日生まれの男性の皆様

・無料抗体検査クーポンが届きましたら、健康診断の機会などで、**抗体検査**をお願いします



One for all,

ひとはみんなのために、
みんなはひとりのために

all for one



トライなんてさせない
タックルで止める

感染なんてさせない
ワクチンで止める

ラグビー日本代表 ©JRFU



